

<第3回>

会長の時間！

平成25年7月18日

【宇部ロータリークラブ誕生；創立総会】パートII

本日も、先週同様、宇部 RC の創立に関する秘話、ご苦労話しをお話いたしますが、当時の大先輩の皆様に対し、ご芳名をそのままお読みいたします。また、読み違え等有りましたら、ご容赦・ご勘弁くださいます様ご理解の程お願い申し上げます。 …主に、昭和31年7月10日…

創立総会には、二木謙吾が仮議長となり、中安閑一が経過報告を行い、いよいよ理事の選出に入ったが最初のことであり、かつ、他クラブ結成の際の慣例もあるので、世話役松田昌平氏の発言に基づき選挙を省略して仮議長の指名によることに一決、それに基づいて仮議長は、俵田 明、中安閑一、岡田完二郎、国吉省三、安近勲治、古谷博美、田中太郎の7名を指名して満場の賛同を得た。依って7名はただちに会合をして会長 俵田 明、副会長 中安閑一、幹事 国吉省三、副幹事兼会場監督 弘永 務、会計 藤部祐雄を決定した。仮議長は俵田会長に議長席を譲り新会長に依って定款及び細則を諮り原案通り承認を得た。

会則によりクラブの地域を「宇部市とその近郊」とし、小野田市を含むこととし、例会日は毎週木曜日入会金は一万円、会費は年額二万円と決定された。また、この際、例会場を商工会議所の三階会議室を借りることとしたが、何分にも設備は無く必要備品も調達しなければならぬので、予め打合せができていた如く、その費用40万円は、宇部興産、宇部ソーダ、小野田セメント、古谷磁業から特別寄付を仰ぐこととなった。

かのようにして7月10日から定例木曜日の会合を開催し、7月には2回、8月には5回、9月には4回とそれぞれ規則正しく例会を継続した。最初から結成に関係したものにとっては一安心という想いであった。しかるに仮クラブ結成と同じに64区地区ガバナー黒川 巖氏を通じて国際ロータリーに加盟承認の手続きを申請したのであるが3ヶ月を経た9月になってもまだ承認が得られない。関係者の焦慮も次第に加わって来た。

この間国吉幹事は、度々黒川ガバナーを訪問して、RI本部から来る質問に答えたのであるがRIの審議の過程で問題となったのは宇部興産の産業各部門から入会している会員がいずれも興産の役員であり、かつ産業各部門が独立したものは認められなかった。いわば興産の一事業から多数の会員が異なった職業分類を与えられているということ、もう一つは石炭鉱業の中で小分類が多数あ

って、全体の分類は偏向し、バランスを欠いているという点であった。これに就いては地域事情を知っているものには必ずしも妥当を欠いていたとは認めぬまでも、本部が了解に苦しむといわれるのも必ずしも無理ではない、要は宇部の特殊事情を詳細に説明するほかはないということになって、再々その意味の釈明書をガバナーから送付して戴いた。そうした事情によって承認は意外におくれた。

しかし、漸く10月24日に至って国際ロータリーの加盟が理事会で認められた。ちょうどこの日が長崎に於いて開催された第64区年次地区大会の終わる日であって、最後に黒川ガバナーが挨拶される直前に本部より承認の電報が到着し、黒川ガバナーの最後の言葉の中にそのことを会場に報告され、満場の参会者から祝福の拍手を受けた。大会に出席した会員の喜びはこの上もない、国吉幹事はこのことを即時に宇部の俵田会長に電報した。

回想すれば、宇部ロータリークラブが胎動を初め、呱呱の声を挙げるまでには相当の期間を過ごし、漸く誕生したもの国際加入を承認せられるまでには、まだ数か月の歳月を費した。そうしてこの間多数の先輩知己によって容易ならざらざるご援助とご配慮をいただいたことは全く感謝に耐えぬ。設立当時の会員は37名であった。…と、結んであります。

*その当時の1万円、2万円は?? そして、*その年はと言いますと…宇部興産創業60周年・厚狭町と埴生町が合併して山陽町となる。その頃は、市町村合併が盛んで、S29年=東岐波村、厚東村、二俣瀬村、小野村が合併する。S30年=船木村、万倉村、吉部村が合併し楠町になる。また、宇部商工会議所が新川市まつりでコイノボリの競演を実施する。「花いっぱい運動」開始されました。

宇部ロータリークラブ誕生に際し、様々な困難な垣根を乗り越えられ見事に設立されましたご苦勞に対し、先輩方に感謝を申し上げ会長の時間とさせていただきます。

次週は、宇部ロータリークラブ秘話 最終編をお話ししたいと思います。

…本日もロータリーライフをお楽しみ下さい。…